





B 95402

横濱九十を屬外人デ六二、小使常吉
リ者主人、衣類盗取、被留校
ト雇教師ワグ子ル方、取押置者、
与教師中、依、石、敷所、被留
此、至急、内、引、吾、上、方、デ、バ、ニ、ハ、ウ、リ、人、
有、此、以、急、使、及、此、達、也

唐平

五十一

大學南校

大學南校

神奈川縣

中

東伏見宮上隨從禮部侍郎兼地土展洋
新移費其外此海軍之派最卑 辨官より
市達相氣其外此仕度其外より
至急此海軍より給致 交否此給致より
有之と云也

東伏見宮上隨從禮部侍郎兼地土展洋

新移費其外此海軍之派最卑 辨官より

市達相氣其外此仕度其外より

至急此海軍より給致 交否此給致より

有之と云也

庚午

十月八日

大學南校

大藏省

中

大學南校

卷五

大學南校

五月十八日 大學南校

Handwritten text in cursive script, likely a letter or a record, spanning several lines.

東伏見宮の侍所南地大寺蔵所

旅費其外儀少少金三匁六分校在

とて其得共随所留る事少く其外金

力多儀少く官負といふ外金少く

同持る事少く其外金少く其外金

相済銀別とある事少く其外金

少く其外金少く其外金少く其外

少く其外金少く其外金少く其外

大令

大學出仕

多他大杜歷

以英金之游之
 山帆之幸至
 昂斗之如之
 相違之
 仍之

唐
子
十
月
下
太
子
名
授

大學南交

御中

大學南校

大少正卿

牛車之勢

今被拙者職爲少辨務使民之知也
孰之是以出學校矣因部中事必能自
當其任仰身之權取計之利以至於此
上之彼地之利之計用多之者也每甲年
被此二年一而今之年何之乎步所居
亦如和風沙之新之以水及之故令之也

降

大
學
西
交

庚子十月

尚以奉文之故少校之出之者一
物之務省之者一之遺之者一也

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

陳

Handwritten text in cursive script, likely a letter or a record, spanning several lines across the right page.

大學南校

南校生徒

Handwritten note or signature below the main title on the right page.

神因乃武

Handwritten note or signature below the main title on the left page.

馬込為助

Handwritten text in cursive script, likely a letter or a record, spanning several lines across the left page.

大學南校

唐平 十月十三日 大學南校

外務省

大田部中助

大田部中助

大田部中助

大田部中助

大田部中助

大田部中助

大學南校

大田部中助

律中

外務省

本林少辨務使米

人同船之保

方知中章

了了

唐平 十月十三日

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

矢田部中助教

右之者来玉留子う 仰付多分う之其古照
十四日南省取の 下 後より先手友
同日手十字和者長段中 後より先
手事

庚子
五月十三日

外務省

大学南校

庚子

大学南校

...

...

...

...

...

...

...

...

一 佛蘭西
法律書

...

一 皇西曆

...

...

...

...

...

...

大學南校

方學南校

中

下ヶ礼

書面之通本廻片事

一 經濟原論

一 貨幣説

右辺部ヲ廻——以下各片及片廻各片

唐子

壬子月十三

森少辨務使

大學南校

下ヶ礼

御中

書面之通本廻片事

除

大學南校

大學南校

書院

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

一覽測日本地圖

考之知本校於之開板其地以書籍之部
之般嘉少部務役者其地以部
之通其地以部務役者其地以部

庚午

五月十四日

知務省

大學南校

御中

大學南校

下ヶ札

書面と通す事

（Faint handwritten text in the right column, mostly illegible due to fading and bleed-through.)

昭白及此批今指書款之英清字書款正

英和字書 薩上原 一ボニ氏英和字書各

一部在出社サ辨移供并由何由之致る事

以事奇リ以早之取取決思之より交付あり

致此依款也

庚午

壬十月十四日

外務省

大子と申候

庚午

大學南校

大學南校

大正十四年

大正十四年十月十四日

大正十四年十月十四日

大正十四年十月十四日

大正十四年十月十四日

大正十四年十月十四日

大正十四年十月十四日

大正十四年十月十四日

大正十四年十月十四日

大正十四年十月十四日

大正十四年十月十四日

大正十四年十月十四日

大正十四年十月十四日

大正十四年十月十四日

大正十四年十月十四日

大正十四年十月十四日

外務省

御中

[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.]

英人ロズジョンリニヨリ
為紙之通しより得るを
事とす様目々々偏々ある事
ある事とす様目々々偏々ある事
ある事とす様目々々偏々ある事
ある事とす様目々々偏々ある事

庚午
十一月十日

外務省

大學南校

御中

大學南校

譯文

以書翰致啓上候當善國之政化神速ニ而條約并
通商之道増加イタル公實之仕方ニ而廉價ニ外
國之貨幣ヲ融通イタル并ニ内國之物産開拓之
為鐵道之規模ヲ廣大ニ取設候至當之處置ニ并
候而若必定都々其間ニ可差起程ノ非常ノ約定
并ニ商業之差違等ニ付貴國之官實方其政府并ニ
人民ノ正理ヲ不相失様萬國通商之法式ニ熟練

大學南校

イタル候外國之執法家ヲ平常手近ニ被差置度
企望可有御座候就而ハ拙者右之技量ヲ以貴國
政府ニ奉仕イタル度候拙者儀當横濱ニ而ナケ
年英國之執法家相勤年ニ亞國之執法家被差置
候且印度國ニライテ上裁断所之執法家ト相成
又同國中之オードベンジョウケ、オリッサ、ベハル之下
裁断所ニ而モ同職ニ而罷在候右オード等之下裁
断所ニ而ハ四教年ニ佛教之法律ヲ執行又佛蘭西

伊斯波尼亞、レハンテン之諸裁断所ニ而實驗イタル
尚古羅馬之法律ヲ相學候右ニハ拙者種々實行
イタル候故前條貴國ニ奉仕之地位ニ居而殊更不
耻儀ト存候猶又東京大學南校之教授職ト相成
國律商法之根源ニ有之候ライトモニイタイテイ之
道理ヲ以貴國弱年之書生ヲ教導之為歐羅巴之
學則ニ隨ヒ学科ヲ取設度存候右ライトモニイク
イタイ之學者總而各國先各民ト和親通商之交

降ヲ取治候ニハ緊要之儀ニ有之候右様之學術
修行之為先頃中大費用ヲ以弱年之書生數多歐
羅巴ハ被取建候儀者貴國政府之為得益守財之
根本ニ可有之候且外國貿易ニ交際增加イタレ
候ニ付種々之混雜可差起候右ニ付而者專業トシテ
不絶法律ヲ執行タメ裁断所之事務ニ懸達イタレ
候貴國人數多御入用ニ可相成候扱拙者右ノ地位ニ
居不耻候儀ハ英國公使ブルハリーパークス閣下亞國

公使デロン氏閣下並ニ英國岡士ハモ御聞合有之度
存候右之趣申述云如斯御座候以上

英國並亞國執法家

庚午
閏十月三日

ロスジョーンズ

澤外務卿閣下

大學南校

水道橋內常省附屬地貴校物產園之
設此處亦宜勸令其成致兼知以右場示
儀之時時日省支配之有東亞府之電開
聖法原居於付其省乃多為官委現由
廠步校所屬地亦有統之以其後及

四卷八下

唐年

字子月

兵部省

方學南校印

振るもふくふく何の合ふいひ早くは國を
つるまふく及く我なりや
直に
大に物有
大に物有
大に物有
大に物有
大に物有
大に物有
大に物有
大に物有
大に物有
大に物有

全澤庵

松永且次郎

佐賀庵

古賀薩左郎

左に何のふくふく
左に何のふくふく
左に何のふくふく
左に何のふくふく
左に何のふくふく
左に何のふくふく
左に何のふくふく
左に何のふくふく
左に何のふくふく
左に何のふくふく

Handwritten text in cursive script, likely a letter or a section of a book, spanning multiple lines across the right page.

大學南校中 外務省

Handwritten text in cursive script, continuing from the left page or as a separate section, spanning multiple lines across the left page.

大學南校

大學南校

陳中

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, spanning several lines across the right page.

Handwritten text in cursive script, continuing from the right page or as a separate entry on the left page.

庚子十月七日

大學南校

外務省

出

大學南校

卷一
 目錄
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

昭々自然之性此乃三祖南岳之全書
 目凡百餘年人知者性之虛未得之者
 之性之性之性之性之性之性之性
 之人之性之性之性之性之性之性
 此乃性之性之性之性之性之性
 有之性之性之性之性之性之性
 之性之性之性之性之性之性
 之性之性之性之性之性之性
 之性之性之性之性之性之性

大學南校

庚午十一月

南校

東校

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, spanning multiple lines.

Handwritten text in cursive script, continuing the document from the previous page.

庚午十一月

南校

東校

庚午

大學南校

大學南校

校門親別之儀
徳大寺大御方副
取付
政府
惣
三職
南
由
中
中

校門親別之儀
徳大寺大御方副
取付
政府
惣
三職
南
由
中
中

大學南校

政也

庚午

第十日

大子所中

解官

大學南校

[Faint handwritten text in vertical columns]

本縣唐運館洋字局追々盛大相為

分分々々出校々々叙別々々々々々々々々々

又官更々々々々々々々々々々々々々々々々々々

々々

庚午

上日

大學

庚午

長崎縣

大學南校

[Faint handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side.]

縣下廣運館佛若師テク一別紙一印通
達言致一以旨指初會ニ至二印通中
之知各何とも初解り得ず初角ニ終志
故ト是合ニ為呈り外東右左方日銘負負和
名悲平初用云々初府作ニ旨終年ノ可至致
也所終下なり也

庚午
十月十二日

長崎縣

大學南校

大學南校

臣等デリ一々其の如く原文を多々あやかし

大學南校

外々中横文を係船目録として由りて告げし
語を未だ有るは目録と異なり必得たらし
とて之を抄出せしむるは之を以て
之を抄出せしむるは之を以て
之を抄出せしむるは之を以て

唐子
十一月十五日

外務省

大正二年

大正二年

大學南校

大學南校

此文横文を横文入新町高島ふかふかの字を
新目録有り

（Faint bleed-through text from the reverse side, mostly illegible due to fading and ink transfer.)

此より一七九ノ新目録横文一經より
多し此南校獨り字數官も方々名義
此よりめきと様々なるも無き得たり
取用はるべきとす

唐平 十一月十七日 大學南校

外務省

唐中

大學南校

大學南校

大文...
...
...
...
...
...
...
...

...
...
...
...
...
...
...

大學南校

外務省所中

大學南校

此書係用

大正四年

18. 2000-2001, 1000-2000

己巳

上
去
陽
如
盤
立
栗
毛
水
鳥
五

二月廿八

鬼首
鹿毛
口

力多也。此乃其子也。

病馬藥方

上云候一旦商校之引取也

當方工部より出陣し、少者あり

陳

大業南交

大學南校

予と申す一子也安んずるを

まじや

予より

大学南校

西九下

西九下

予と申す一子也安んずるを
まじや
予より
西九下
西九下

予と申す一子也安んずるを

まじや

予より

西九下

西九下

大学南校

西九下

陳

大學南校

[Faint vertical text in the right column, mostly illegible]

日本在留獨り北部聯邦セラルンコンシエラー

ト即今記録中ニ北部獨り蒸気船ライン名

号一艘商人アグレレーンヨリ日本人高き少屋

洋銀四萬弗ニテ賣拂タル事明瞭ナリ

横濱一千八百七十年五月廿七

獨り北部聯邦

セラルンコンシエラー

フランド手記

右為之新法章證文書取

長サ英尺二百六十一寸二分幅サ八フド十二寸

深十八フド十二分六

八百十五噸積

内四百三十四噸ハ蓋之機械ノ量

十二馬力

千八百五十三年グラスコーニテ造ル

回車ノ名ナリ ライン

當校迄ノ階堂ノ相成ル位外西面所為

時拾金ノミナリ也又南校且海地也

高ク今亦凡建之伴也

其ノ中ノ事也難キ事也

其ノ所為也所為人トシテ平常事也

其ノ事也其ノ事也其ノ事也

其ノ事也其ノ事也其ノ事也

其ノ事也其ノ事也其ノ事也

庚午十一月

大學南校

大學南校

東京府

法中

本校匠、盛隆相、此屋、外國、高師、出、新、居、
館、其、身、非常、之、上、消防、方、豫、所、有、之、
其、交、趣、多、以、先、後、辨、左、右、中、之、事、其、日、方、
ト、上、高、府、之、達、ト、相、成、高、師、所、有、之、事、其、日、方、
右、消、防、之、事、其、出、火、場、大、勢、ノ、模、様、ト、上、
其、點、檢、之、者、出、於、人、之、手、及、指、揮、消、防、之、
其、義、之、有、之、者、ト、拍、手、援、助、之、ト、及、毎、人、取、
其、金、丁、金、之、事、其、日、方、人、之、所、設、主、可、

大學西校

中代たしに右入費之偏を成る事と云ふ
府より一段消防に多し先般改定年左
の左入費之額より多し我々此等及び
読りや

庚午月十日

東京府

大寺寺南校

中中

非常之甚消防人は少学校より出る事
備主より右入費より多し先般改定年左
の左入費之額より多し我々此等及び
読りや

大學南校

庚午 十月廿二 大學南校

東京府

市中

[Faint vertical text in the right column, mostly illegible]

親方... 當校... 海北建輝... 清防

人... 是... 候... 自... 日... 始... 之... 始... 也

上... 夫... 一... 越... 之... 通... 時刻... 之... 増... 減... 方... 之...

得... 有... 考... 以... 并... 而... 代... 子... 外... 之... 分... 全... 全... 而... 分...

永... 有... 知... 久... 出... 火... 之... 意... 每... 有... 出... 以... 身... 餘... 定... 之...

出... 之... 傳... 出... 方... 之... 意... 依... 以... 始... 考... 方... 之... 意... 向...

庚午 三月十九日 東京府 市中 大學南校

大學南校

大學南校

あまのこはさかたけのふしをみよふ
石乃と名をたてし市井の代りなり
ふしをみよふふしをみよふふしをみよふ
増城方より候ふふしをみよふふしをみよふ
ふしをみよふふしをみよふふしをみよふ

江戸
十二月

東京府

大學南校

ふし

清治人足るなり
ふしをみよふふしをみよふふしをみよふ

一合心なり

人足るなり

清治人足るなり
ふしをみよふふしをみよふふしをみよふ

但し月合心なり
ふしをみよふふしをみよふふしをみよふ

ふしをみよふふしをみよふふしをみよふ

一合心なり

人足るなり

清治

ふしをみよふ

大學南校

金之方物あるを以て定式なり

右式新出の板刻ありて宋板と云ふ由

海方之計に著す者を知る事なり

一 諸君の如くはなり 新出の板刻なり

一 諸君の如くはなり 増補代りなり

一 諸君の如くはなり 弟代りなり

金銀の如くはなり

諸君の如くはなり

右の如くはなり

之の如くはなり

大學南校

土御門和久儀大寺の在りて免所
ありて有東家と云ふこと
ありて有東家と云ふこと
ありて有東家と云ふこと

唐子
上月也
韓官

大學子抄

大學西校

大學南校

[Faint handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side]

大學少助教准席

熊澤善庵

有るに投獨乙多字中付左字と有る
るに職務と有る元と有る像也邊と有る
と有る也

庚午

十二月廿五日

韓中友

大學南校中

大學南校

大學南校

此石田人魚藏也達信之上別字
陽明之上像達信方石版印

三石版

三石版

達信之上像達信方石版印

三石版

大學南校

別紙也陽明公供
別紙也陽明公供

庚午

三石版

外紙者

大學南校

三石版

大學南校

[Faint handwritten text in vertical columns, likely bleed-through from the reverse side]

以之代致致上之礼をフイクトル云々と号
我國之原隔海世界中に在りて
海外有用之者を我國政府執政國が
敬識之儀を要同人等國南校之原
擧ぐられし由獨に北部隊部カニセル
閣下拙者も爲知るに且同人等軍後
兵隊と名入る間主として今迄五月
間一々之役兵隊と免る間近々

當地計名之由之方之
天皇陛下政府より方地を承買入る
多之なる派金子と目し上廟中より
其外修方規則有数部は役望より
通し持たしめ各將又ある氏南校に
出せ申し我公供給に附合し申し徳に
原あるより方用と名し撰り金に銭
年派より方地當地より城より出せ撰り

小部縣邦カニセル閣下風能方より
恒より方地より方地より方地より

六十六年一月廿五

獨乙部縣邦公使

フオニブラント

澤 三位

方地 三位

閣下

大學南校

[Faint handwritten text in vertical columns]

館藏

代島倫彦

右ノ段魯國留學ニ 仰有以自進合

カ知ル此後乃チ以テ

庚午
十一月二十日

館藏

大學南校

以中

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

大學南校

(Faint vertical calligraphy)

英公供_ふ進呈_{しんせい}御_ご之_の當_{あた}局_{きやう}正_{ただ}流_{りゅう}
唐_{たう}泰_{たい}西_{さい}草_{そう}花_{かう}種_{ちゆう}子_し較_{けう}以_い源_{げん}
下_か河_が知_ち多_た少_{せう}他_た如_に加_か有_あ遠_{えん}
當_{あた}者_{しや}出_で取_と方_{ほう}心_{こころ}法_{ぽう}從_{じゆ}子_し入_{いれ}合_{あは}

庚午十二月

勸農局

大學南極

產物局

1848
 1849
 1850
 1851
 1852
 1853
 1854
 1855
 1856
 1857
 1858
 1859
 1860
 1861
 1862
 1863
 1864
 1865
 1866
 1867
 1868
 1869
 1870
 1871
 1872
 1873
 1874
 1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900

7

